

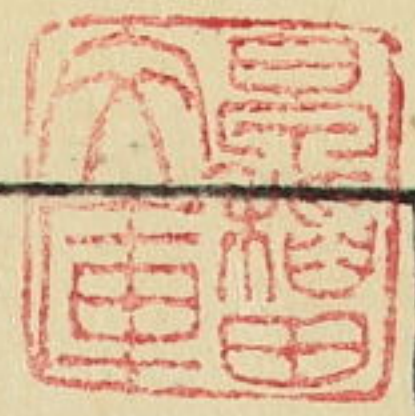


祝詞考

人

特別  
イ 4  
3163  
163(3)





○今也今本ハ式考と誤りぬ。  
 ○式考ハ式連署の法ハ其事云々  
 年月日 大録一  
 一 卿位姓名 大位位姓名  
 二 大位位姓名 少丞位一  
 三 少補 少録 一  
 かくれぬや中 大録ハ 解文のそ者  
 二 後 卿以下の連署也 注 あり  
 のき一と替り也

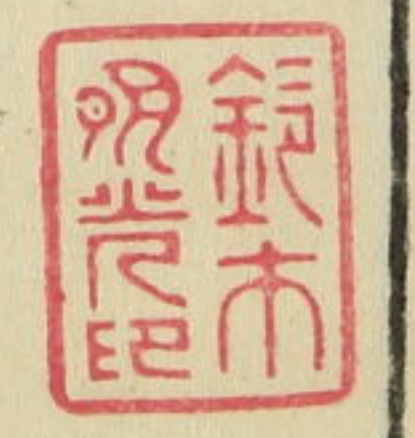
祝詞考下卷

○道饗祭

式ハ今本ハ大祓禊火道饗と云て出ると右左と横  
 考ぬとのた也。今大祓道饗火鎮とせざるは  
 神祇令書本ハ一 神衣 三 大忌祭  
 二 三枝祭 四 風神祭 と出て 右左と横  
 讀こと小して 二 道饗祭 三 鎮火祭  
 其次風神即与式令連署義同以下諸祭並准此例といへ  
 次道饗の教入る。徳火よりあるは保をまはす  
 るかきなり。

○はあなり神祇令ハ季夏道饗祭同義解ハ謂ハ祀事終

○祝詞考下





○布那斗久那斗  
 ○御林... 衡立...  
 ○波所成神名道三長乳齒神...  
 ○紀長道磐...  
 ○衡比古八衡比賣...  
 ○久那斗神ハ...  
 ○紀...  
 ○書...  
 ○投其...  
 ○雷不敢來是謂岐神比本名号來名戸之祖神焉又書經津主神以岐神...  
 ○為郷導周流削平...  
 ○根國底國利鹿備疎...  
 ○備來物爾...  
 ○相率相口會事無...  
 ○下行者下平守...  
 ○上往者上平守...  
 ○夜之守日之守...  
 ○進幣帛者明妙...  
 ○照妙和妙荒妙爾...  
 ○備奉御酒者懸邊...  
 ○高知...  
 ○祝詞考下

賣久那斗止却名者申氏稱辭竟奉

久那斗伊那那岐大神阿波岐原...  
 波所成神名道三長乳齒神又於投棄御禪所成神名道伎神...  
 紀長道磐...  
 衡比古八衡比賣...  
 久那斗神ハ...  
 紀...  
 書...  
 投其...  
 雷不敢來是謂岐神比本名号來名戸之祖神焉又書經津主神以岐神...  
 為郷導周流削平...  
 根國底國利鹿備疎...  
 備來物爾...  
 相率相口會事無...  
 下行者下平守...  
 上往者上平守...  
 夜之守日之守...  
 進幣帛者明妙...  
 照妙和妙荒妙爾...  
 備奉御酒者懸邊...  
 高知...

根國底國利鹿備疎  
 備來物爾  
 相率相口會事無  
 下行者下平守  
 上往者上平守  
 夜之守日之守  
 進幣帛者明妙  
 照妙和妙荒妙爾  
 備奉御酒者懸邊  
 高知

相率相口會事無  
 下行者下平守  
 上往者上平守  
 夜之守日之守  
 進幣帛者明妙  
 照妙和妙荒妙爾  
 備奉御酒者懸邊  
 高知

ハ言れ保もまひ。 磁腹滿雙氏汁爾類。 爾上母類。 爾上母。 大忌。

和稻荒稻。 御酒者或ハ山。 山住物。 如。 山野。 爾住物。

者毛能。 和物毛能。 荒物。 青海原。 爾住。

物者。 贍乃。 廣物。 贍乃。 狹物。 奥津海菜。

邊津海菜。 爾至。 萬氏。 横山之如。 久置。

所足。 氏。 進。 宇豆。 能。 幣帛。 乎。 平。 氣。 聞。 食。

氏。 八。 衢。 爾。 湯津。 磐。 村。 之。 如。 久。 塞。 坐。 氏。

皇御孫。 命。 乎。 堅。 磐。 爾。 常。 磐。 爾。 齋。 奉。 上。 八。

親王。 王。 等。 親。 王。 等。 臣。 等。 百。 官。 人。 等。 天。

下。 公。 民。 爾。 至。 萬。 氏。 平。 氣。 齋。 給。 止。 都。 上。 後。

茂。 御。 世。 爾。 幸。 開。 奉。 給。 止。 申。 又。

親王。 王。 等。 親。 王。 等。 臣。 等。 百。 官。 人。 等。 天。

下。 公。 民。 爾。 至。 萬。 氏。 平。 氣。 齋。 給。 止。 都。 上。 後。

○祝詞考下

四

親王。 王。 等。 親。 王。 等。 臣。 等。 百。 官。 人。 等。 天。











前菜の... 鮑川菜... 堙山姫... 手... 給... 氏... 水生給... 氏... 水神

有人... 反坐... 更生子... 水神

鮑川菜... 堙山姫... 四種物... 水生給... 氏... 水神

手... 給... 氏... 水生給... 氏... 水神

心... 荒... 水神... 鮑

心... 荒... 水神... 鮑

心... 荒... 水神... 鮑

心... 荒... 水神... 鮑

堙山... 堙山... 堙山... 堙山... 堙山...

給... 支... 依... 稱... 辭... 竟

奉者... 皇... 御... 孫... 命... 能... 朝... 廷... 爾... 御... 心... 一... 速

比... 給... 波... 志... 止... 為... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...

進物... 波... 明... 妙... 照... 妙... 和... 妙... 荒... 妙... 五... 色... 物

手... 備... 奉... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...

手... 備... 奉... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...

○龍詞考下

○カ

古に載る是成の終  
るるも、こゝに記

條青海原ハラ尔住物者ハタノ鱈ニロ廣物ハタノ鱈ニロ挾物サシモノ

奥津海菜邊津海菜爾至イタル御酒ミツ

者。殫邊高知殫腹滿雙ニラ氏ウヂ御酒ミツ

和稻荒稻爾至イタル氏ウヂ御酒ミツ

山置高成タラ天津祝詞乃大祝詞事オホノミコトノコト

以氏稱辭竟奉ハハ止申トマシ氏ウヂ御酒ミツ

ひし、所の居へる御言もあはれ、み神、嶺山姫、二神ともあはれ、御酒の生は、  
此を既よりあはれ、この祝詞、ハ、さうあつと、かこし

### ○大嘗祭

大嘗新嘗とて、  
一、今、後、の月、  
の位、  
本紀以下、史、考、  
○大嘗祭日時、五穀七  
道の諸社奉幣、  
ふ、  
と、  
○新嘗祭、奠幣、案  
上神、三百四座、並、社  
一百九十八座、  
座別、純玉、八、  
器、

は、條、い、の、つ、  
か、  
徳、  
月、  
大、  
の、  
大、  
行、  
一、

○祝詞考下

前一百六座  
座別幣物進社法云

右中印目於此官齋  
院官大行幸 諸司不  
但領幣及進法神  
物料度中臣視詞料  
准三六祭

多の如きこと大嘗祭に當りては祝詞のてつ日嗣統  
しむ。地の大嘗祭の言あるをいふ。此の如きも元々  
おれ大嘗祭の時諸司御使立り。理幣を奉條よ。卯日。官  
に諸司に祝詞の時も祝詞の言ハ元々大嘗祭の時  
ふる。祝詞の言あるをいふ。又この如きも大嘗  
祭の時もいふ。此の如きも大嘗祭の時もいふ。此の  
如きも大嘗祭の時もいふ。此の如きも大嘗祭の時もいふ。

集侍神主祝部等諸聞食登宣  
高天原爾神留坐皇睦神漏伎神漏  
彌命以天社國社登敷坐留皇神等

前爾白久。即位の大嘗祭の言あるをいふ。此の如きも元々  
大嘗祭の時もいふ。此の如きも大嘗祭の時もいふ。此の如きも大嘗祭の時もいふ。

年十一月中卯日爾天都御食乃長

御食能遠御食登皇御孫命乃大嘗

聞食年為故爾紀書に云く天照大神の詔に中  
所御齋庭之敷亦當御於吾兒也。皇神等相宇豆乃

比奉氏。孝謙天皇紀の詔に天坐神地坐神乃相宇豆乃比奉  
と宣ひ稱徳天皇紀に於て此宇宿奈比由流之天に

此の如きも大嘗祭の時もいふ。此の如きも大嘗祭の時もいふ。此の如きも大嘗祭の時もいふ。此の如きも大嘗祭の時もいふ。

よあこまへ... 御前... 具... 比... 奉...  
七の先... 堅磐爾... 常磐爾... 齋比奉... 刊茂

御世爾... 幸開奉... 依... 年... 依... 依...  
御世爾 幸開奉 依 年 依 依

千秋五百秋... 爾... 依... 依... 依...  
千秋五百秋 爾 依 依 依

安久聞食氏... 豐明爾... 明... 年... 豐明...  
安久聞食氏 豐明爾 明 年 豐明

御赤比坐... 御赤比坐... 御赤比坐... 御赤比坐...  
御赤比坐 御赤比坐 御赤比坐 御赤比坐

○は... 御冠... 御冠... 御冠...  
御冠 御冠 御冠

孫命能... 宇豆乃幣帛乎... 明妙照妙和...  
孫命能 宇豆乃幣帛乎 明妙照妙和

○祝詞考下

ウ十二

奉禮幣帛神主祝部等請式事不  
留幣帛神主祝部等請式事不  
奉登宜  
捧持氏奉登宜

右の如く朝よ皇神よまこと夕よはた皇神よすしんは  
上は皇神よまこと夕よはた皇神よすしんは  
御孫命をすしんは皇神よまこと夕よはた皇神よすしんは  
御孫命をすしんは皇神よまこと夕よはた皇神よすしんは  
御孫命をすしんは皇神よまこと夕よはた皇神よすしんは  
御孫命をすしんは皇神よまこと夕よはた皇神よすしんは

○鎮御魂齋戸祭 中一宮。春一宮。齋戸祭。祭  
亦同。

上の大座は三の下よ  
八神の御魂は三の  
上は皇神よまこと夕よはた皇神よすしんは  
御孫命をすしんは皇神よまこと夕よはた皇神よすしんは  
御孫命をすしんは皇神よまこと夕よはた皇神よすしんは  
御孫命をすしんは皇神よまこと夕よはた皇神よすしんは

四時祭式。十二時鎮御魂齋戸祭。云々右於官齋院中臣行事と  
云々。こは神祇官の齋院といんとし。後、和名紀四神  
祇官の齋院齋戸神也。是、八津と齋戸。おやがさ  
久親儀式。この四時をすしんは皇神よまこと夕よはた皇神よすしんは  
御孫命をすしんは皇神よまこと夕よはた皇神よすしんは  
御孫命をすしんは皇神よまこと夕よはた皇神よすしんは  
御孫命をすしんは皇神よまこと夕よはた皇神よすしんは

○祝詞考下

解の云々... 〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始... 〇舊事記... 〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始... 〇舊事記... 〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始...

〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始... 〇舊事記... 〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始... 〇舊事記... 〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始...

諸... 〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始... 〇舊事記... 〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始... 〇舊事記... 〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始...

官人以下装束料

右中... 内侍... 〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始... 〇舊事記... 〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始... 〇舊事記... 〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始...

〇貞元...

〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始... 〇舊事記... 〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始... 〇舊事記... 〇貞元... 〇旧事記... 又云... 二月庚寅... 肇志... 奉... 諸... 自此而始...

らぬの傍作也。其  
外ありては、後  
へいし目し。國  
元也。いし  
或人の言を其は  
魂とす。神は  
さかき。神は  
かし。いし  
し。神は  
神は  
神は

高天原爾神留坐須皇親神漏伎神

漏美能命乎以氏皇御孫之命波豊

葦原能水穗國乎安國止定奉氏安國

知食登事依奉氏。右の命乎以氏を奉る。いし

下津磐根爾宮柱太

敷立高天之原爾千木高知氏天之

御蔭日之御蔭止称辭竟奉氏

甲子。理。神。其  
て。いし。いし。いし  
神。神。神。神  
神。神。神。神  
神。神。神。神  
神。神。神。神  
神。神。神。神  
神。神。神。神  
神。神。神。神  
神。神。神。神

奉御衣波上下備氏上下給事古事記に  
伊弉那岐命被下

御衣裳御禪何と又因紀云。應神下永社支誓寶社云。避上下衣服

宇豆乃

幣帛波明妙照一妙和妙荒妙五色物

御酒波魂邊高知



雙ナラハ氏ノ山野ノ物モ波ハ甘アミ菜ナ辛カラ菜ナ青アヲ海ミ原ハラ乃ナリ  
 物モノ波ハ鱈ハタ廣ヒロ物モノ鱈ハタ狹サ物モノ奧ウチ津ツ藻モ菜ハ邊ヘ津ツ  
 藻モ菜ハ爾ニ至イタル萬マン氏シ雜雑ノ物モノ乎フ如ヨコ橫ヤ山ノ置オキ高タカ  
 成ハシ氏ノ獻タテマツ留レ宇ウ豆ツ乃ノ幣ヒ帛クシ乎フ安ヤス幣ヒ帛クシ能ネ  
 足タラシ幣ヒ帛クシ止ト今イマ幣ヒ帛クシ乎フ平ヒラ久ク聞キ食シ氏ノ皇ミコ良ヨシ  
 爾ニ齋イハヒ奉ニツリ茂シカ御カド世ド爾ニ幸サキ閑ヒラ奉ニツリ給タマフ氏ノ御ミコ魂タマシ  
 朝廷テウテイ乎フ常トキ磐イハ爾ニ堅カタ磐イハ石イシ我ワレ良ヨシ

始ハジメ來キタル十シ二ハ月ス爾ニ至イタル萬マン氏シ平ヒラ久ク御ミコ坐イハ所トコロ  
 令オノシ御ミコ坐イハ給タマフ止ト職シヨク負ツク令オノシ神カミ祇ニギハヤヒ官ノ之ノ條ノ鎮チン魂コン義ギ解ゲ謂イハレ鎮チン安アン也ナリ  
 之中ノ府ノ故ノ曰イハレ鎮チン魂コン也ナリ一ヒト於ニ乎フ同トウ也ナリ此コノ言コト也ナリ此コノ言コト也ナリ  
 何ナニのノ言コト也ナリ○十二月トキ也ナリ志シをヲ以テ以テ之ノ言コト也ナリ  
 今イマ年トシ十ジウ二ニ月グヰ某ナニ日ヒ  
 齋イハヒ比ヒ鎮チン奉ニツリ止ト申マカス

○祝詞考下









○上つ残の...  
と...  
...

ま...  
...

又阿右皇... 慶相縣之折鈴五十鈴宮所居神名撞賢未最  
之御魂天疎向津媛命... 其御軍年庫浦...  
入す... 又天照大神の荒魂の誨... 當居御心廣田國云  
云亦稚日女尊誨之曰吾欲居活田長峽國云云... 二所...  
荒魂... 即五十鈴宮... 御坐... 外宮を  
荒魂... 一神... 備...  
... 一所... 二所... 有也... 無仁  
天皇二十六... 神功皇后の神... 三百...  
... 又既... 荒魂...  
一つ... 又... 荒魂  
と小社...  
... 大御神... 志小  
... 天皇二十一年丁巳冬十月... 七

大御神...  
...

月豐受大神と丹波... 遷... 何  
とい... 倭姫命... 皇... 十五... 紀...  
... 五百... 武内宿禰... 三百... 五百...  
... 景行天皇二十年二月遣五百野皇女令祭天照大神...  
... 天... 倭武尊... 倭姫命...  
... 大泊瀬天皇元年... 推足皇女云... 侍伊勢...  
... 定... 前... 前...  
... 右... 也...  
... 也...

○祝詞考下

○ ○ ○ ○  
此あり右は宗しりやま。あしきもの也。  
あはる。は歌多し。本はいし乱まなり。

天皇 我 御命 以 氏 度 會 乃 山 田 原 乃

度云邪。沼水郷。山田系。下津石根 爾 稱 辭 竟 奉

流。既。豐受皇神 爾 申 之 常 毛

進 流 二 月 祈 年 月 次 祭 唯 以 六 月 大

幣 帛 手 某 官 位 姓 名 乎 為 使 天 令 捧

持 氏 進 給 布 御 命 乎 申 給 久 申

○ 四 月 神 衣 祭 准 之 九 月

上。伊勢大神宮と標して二月祈年云云。このひ。豊受宮と  
標し。右同ふ。詔と奉れ。を。ア。ト。二所大神宮。  
以此詔。但於豊受宮者。換其詞耳。な。り。の。故。あ。る。べ。し。ん。ん。

○ 神祇令。孟夏神衣祭。義解。謂伊勢大神宮也。比神服部等。  
齋戒潔清。以參河赤引神調系織作神衣。又麻績連等。績麻。又織  
敷和衣。以供神明。故曰神衣。この後。式。よ。あ。し。く。神服部が  
織。ハ。緒。也。赤引系。即。替。系。は。く。參。河。の。神。衣。も。て。飲。ま。す。伊。勢  
の。多。氣。の。服。部。等。服。部。は。在。る。織。也。又。麻。績。連。等。同。部。麻  
績。村。は。在。る。麻。を。以。織。也。式。よ。服。部。戶。二。十。二。烟。麻。績。戶。二。十。二

の上。氏。は。六。回。神。衣。  
も。細。布。也。よ。ぶ。  
之。差。當。然。何。ら  
之。ら。ひ。ひ。ひ。二  
か。ま。り。和。衣。  
の。多。氣。了。展。多。

烟と云ふべし。和妙荒妙右二氏の者始從祭月一日織作。至十四日供祭。其數々大神宮和妙二十四疋。荒妙八十疋。此より豐受官に教ハ式ニ依ル。荒祭の實料の三角。六月、次祭。大太神宮。赤引系四十約。度會官。同系三十約。あはれし。

○立天の天(例)  
遠へ。か。り。貴。い。ま。り。天。上。と。呼。び。下。に。の。り。て。次。下。も。か。り。あ。ら。わ。れ。し。

度會乃、宇治五十鈴川上、大宮柱  
大敷立天、高天原、赤木高知、稱  
辭竟奉留、天照坐皇大神乃、大前爾  
申久、服部麻績乃、人等乃、常毛仕奉

留和妙荒妙乃、御衣乎、進事乎、申給  
止申、荒祭官爾、如是申、天進、止宣、禰  
内人、その稱唯上、ハ、藤、那、等、同式云、二所大神宮者、稱宣大  
稱、唯、内人、毎旬、率、物忌、又、并、小内人、戸人、等、カ、番、宿、直、荒祭、官、也。  
内人、二人物忌、小内人、各、一、人、と、名、比、稱、宜、也、職、事、内人、番、上、也。  
天平勝寶五年、紀、大神宮、外、從、五、位、下、神、主、首、名、授、外、從、五、位、上、内人  
物忌、男、四、十、五、人、女、十、六、人、授、位、各、有、差、也、又、唐、元、年、紀、伊、勢、  
國、荒祭、月、讀、瀧、原、伊、雜、高、官、等、神宮、内人、五、人、始、預、把、勢、也、  
人々、神、戸、  
の人、也、



六月月次祭三ツキ 十一月

天皇の詔を奉りて  
皇宮の中を祈願  
出づるに於ては  
心なれはのまを  
さしむるを中ハ  
かゝるに乃里を  
たてしむるまを  
衣既にいさく洗  
朝の二つありしあ  
らざるに祈願  
と云べき祈願さ  
るるのよみて中  
の祈をよみてさ  
らるるに祈願と  
いふ祈願しり  
と云ふ祈願しり

上よ。二月祈年、六月々次祭と標し。洗初あるを最初と云ふ。神祇官於二月と六月に祭と。同じ洗初をがらし。洗をさることなり。六月々次祭として洗初のみならず。上ぬるハ。天皇於御使中。臣の宣。方言。くろる。挙。くろる。大神宮司のハ。洗初也。ハ。傳。く。四時祭式。ハ。同宮の奉。祭。儀。ハ。使。の。臣。申。詔。カ。次。宮。官。宣。洗。初。ハ。儀。也。其。儀。ハ。式。ハ。六月十六日祭度會宮。十七日祭大神宮。其儀十五日黄昏以後。祢宜率諸内人物忌等。陳列神脚雜物。訖。亥時供夕膳。丑時供朝膳。祢宜内人等。奏歌舞。十六日平旦。齋內親王參入。度會宮。至板垣門。東頭下興入。外玉垣門。就座於東殿門内。東西各有一殿。東殿設齋內親王座。左右設命婦等座。西殿設女孺等座。訖。即神宮司執鬘木綿。入外玉垣門。北向而跪。命婦若女孺出。受以奉齋內親王拍手。而

執著鬘神宮司又持太玉串是名太玉串 入同門而跪。命婦亦轉奉齋王拍手而執捧入。内玉垣院門。就座。席命婦若女孺。前再拜兩段命婦。訖。玉串授命婦。々々受轉授物忌。々々受執立瑞垣門。西頭齋內親王還就本座。然後祢宜乃著明衣衣冠解大。神宮司著當色並執太玉串。祢宜立前大神宮祢宜立左。次宮司次幣雜物。并馬單行陣列。次朝使進入外玉垣門。當内玉垣門。並皆跪。先使中臣申詔カ。次宮司宣祝詞。訖。物忌内人等。解幣。乘入。奉置瑞垣内。財殿齋內親王并衆官以下。再拜拍八兩手。次拍短手。再拜。如此兩遍。既而衆官退出。即使及宮司以下。同。多賀宮。齋王。再拜。兩段。拍。短手。兩段。退。就解齋殿。給酒食。訖。入外玉垣門。供。倭舞。先神宮司。次祢宜。次大内人。幣帛使。次齋宮。主神司。次祭允以上一人酒立。女一人。持拍一人。每儀三人。令飲。和酒。但。酒。用。祢宜。内。人。立。女。齋。王。參。祭。之。日。采。女。供奉。或。用。女。孺。祭。式。三。時。等。妻。子。。次祢宜。大内人。妻。訖。齋宮。女孺。四人。供五節。舞。次。馬。稻子。儻。十七日參大神宮。其儀一同。度會宮拜。荒。祭。宮。同。多。賀。宮。

度會 乃、宇治五十鈴 乃、川上爾、大宮

柱大敷立、天高天原爾、千木高知、天

稱辭竟奉留、天照坐皇大神乃、大前

爾、申進留天津祝詞乃、大祝詞、神

主部物忌等諸聞食止、宣禰宜内人

大神、官式、内宮二、八、禰宜一人、後、六、大内人四人、物忌九人、童男一人、童女八人、父九人、小内八人、外宮二、禰宜一人、後、八、大内人四人、物忌六人、父六人、小内八人、他宮二、禰宜一人、大内人二人、物忌父各一人、此と

天皇 我御命 爾坐 下於神賀よ神王の額。又大名持命 此言りて御孫令と云りて一國邊り

申も天皇と云る。こも多司 御壽手 手長乃 御壽

止。如湯津磐村常磐石磐 爾伊賀志

御世。爾奉儀 給比 比、比御壽手の御孫。不意出るに地社 此言りて御孫令と云りて一國邊り

阿禮坐 皇子等 乎 惠給比 百

官人等 天下四方 國能 百姓 爾至

宇万の物阿。 皇太子等。 母。 比。 百。 乃。 大。

祝詞考下 五

伊賀志盛く八天  
下。天皇の御授威  
備れきむの御心  
伊賀志盛く八天  
下。天皇の御授威  
備れきむの御心





○在<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>發<sup>ル</sup>の字<sup>ニ</sup>ヨ  
リ、皇<sup>ノ</sup>御<sup>ノ</sup>孫<sup>ノ</sup>トシテ、山  
田<sup>ノ</sup>原<sup>ノ</sup>トシテ、天皇<sup>ノ</sup>ノ  
御<sup>ノ</sup>命<sup>ノ</sup>ヲ以<sup>テ</sup>度<sup>ニ</sup>會<sup>ス</sup>能<sup>ク</sup>山  
田<sup>ノ</sup>原<sup>ノ</sup>爾<sup>ニ</sup>

之神<sup>ノ</sup>嘗<sup>ノ</sup>乃<sup>レ</sup>大<sup>ニ</sup>幣<sup>ヲ</sup>帛<sup>ヲ</sup>乎<sup>ニ</sup>某<sup>ノ</sup>官<sup>ノ</sup>某<sup>ノ</sup>位<sup>ノ</sup>某<sup>ノ</sup>姓<sup>ノ</sup>名<sup>ヲ</sup>乎<sup>ニ</sup>爲<sup>ス</sup>使<sup>ト</sup>氏<sup>ト</sup>忌<sup>ト</sup>  
中<sup>ノ</sup>臣<sup>ノ</sup>某<sup>ノ</sup>官<sup>ノ</sup>某<sup>ノ</sup>位<sup>ノ</sup>某<sup>ノ</sup>姓<sup>ノ</sup>名<sup>ヲ</sup>乎<sup>ニ</sup>爲<sup>ス</sup>使<sup>ト</sup>氏<sup>ト</sup>忌<sup>ト</sup>  
部<sup>ノ</sup>弱<sup>ク</sup>肩<sup>ヲ</sup>爾<sup>ニ</sup>大<sup>ニ</sup>襪<sup>ヲ</sup>取<sup>リ</sup>懸<sup>ケ</sup>氏<sup>ト</sup>持<sup>テ</sup>齋<sup>ト</sup>理<sup>ト</sup>波<sup>ト</sup>令<sup>テ</sup>捧<sup>グ</sup>  
持<sup>テ</sup>氏<sup>ト</sup>進<sup>メ</sup>給<sup>フ</sup>布<sup>ヲ</sup>御<sup>ノ</sup>命<sup>ノ</sup>乎<sup>ニ</sup>申<sup>テ</sup>給<sup>フ</sup>止<sup>ム</sup>久<sup>ク</sup>申<sup>テ</sup>

○豐<sup>ト</sup>受<sup>ク</sup>官<sup>ノ</sup>同<sup>ノ</sup>祭<sup>ト</sup>

天<sup>ノ</sup>皇<sup>ノ</sup>我<sup>ガ</sup>御<sup>ノ</sup>命<sup>ノ</sup>以<sup>テ</sup>氏<sup>ト</sup>度<sup>ニ</sup>會<sup>ス</sup>能<sup>ク</sup>山<sup>ノ</sup>田<sup>ノ</sup>原<sup>ノ</sup>爾<sup>ニ</sup>

稱<sup>ス</sup>辭<sup>ヲ</sup>竟<sup>ク</sup>奉<sup>ル</sup>流<sup>ル</sup>皇<sup>ノ</sup>神<sup>ノ</sup>前<sup>ニ</sup>爾<sup>ニ</sup>申<sup>テ</sup>給<sup>フ</sup>久<sup>ク</sup>常<sup>ニ</sup>毛<sup>ト</sup>

進<sup>メ</sup>留<sup>ル</sup>九<sup>ノ</sup>月<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>神<sup>ノ</sup>嘗<sup>ノ</sup>能<sup>ク</sup>大<sup>ニ</sup>幣<sup>ヲ</sup>帛<sup>ヲ</sup>乎<sup>ニ</sup>某<sup>ノ</sup>官<sup>ノ</sup>

某<sup>ノ</sup>位<sup>ノ</sup>某<sup>ノ</sup>王<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>臣<sup>ノ</sup>某<sup>ノ</sup>官<sup>ノ</sup>某<sup>ノ</sup>姓<sup>ノ</sup>名<sup>ヲ</sup>乎<sup>ニ</sup>爲<sup>ス</sup>使<sup>ト</sup>

氏<sup>ト</sup>忌<sup>ト</sup>部<sup>ノ</sup>弱<sup>ク</sup>肩<sup>ヲ</sup>爾<sup>ニ</sup>大<sup>ニ</sup>襪<sup>ヲ</sup>取<sup>リ</sup>懸<sup>ケ</sup>持<sup>テ</sup>齋<sup>ト</sup>理<sup>ト</sup>波<sup>ト</sup>令<sup>テ</sup>

捧<sup>グ</sup>持<sup>テ</sup>氏<sup>ト</sup>進<sup>メ</sup>給<sup>フ</sup>布<sup>ヲ</sup>御<sup>ノ</sup>命<sup>ノ</sup>乎<sup>ニ</sup>申<sup>テ</sup>給<sup>フ</sup>止<sup>ム</sup>久<sup>ク</sup>申<sup>テ</sup>

○同<sup>ノ</sup>神<sup>ノ</sup>嘗<sup>ノ</sup>祭<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>既<sup>ニ</sup>い<sup>ハ</sup>ル<sup>ニ</sup>如<sup>ク</sup>大神<sup>ノ</sup>嘗<sup>ノ</sup>祭<sup>ト</sup>ノ<sup>ノ</sup>宣<sup>ト</sup>流<sup>ル</sup>也<sup>ト</sup>

○祓<sup>ノ</sup>禊<sup>ノ</sup>考<sup>ノ</sup>下

度會乃宇治能五十鈴乃川上爾大  
 宮柱大敷立こゝに氏とあり高天原千木  
 高知天稱辭竟奉苗天照坐皇大神  
 乃大前爾申進留天津祝詞乃大祝  
 詞乎神主部物忌等諸聞食止宣宜禰  
 内人等唯唯天皇我御命爾坐御壽乎手  
 共執唯唯天皇我御命爾坐御壽乎手  
 長乃御壽止如湯津磐村常磐堅磐

爾伊賀志御世尔幸倍給比阿禮坐  
 皇子等母惠給比百官人等天下四  
 方國乃百姓尔至長平久護惠美  
 幸比給止三郡國々處々上よ寄奉留禮  
 神戶人等能常毛進留由紀能御酒  
 御贄懸稅千稅餘五百稅乎稅のちと  
 之源出自田租即乃萬三一日大稅二日  
 一國の神皇也乃十五万束は稻を以て割付く貸の元を大

〇養老四年三月紀  
 今諸國每年春秋出  
 稅貸以百姓繼其產  
 業至秋熟後依數收  
 納其輸三也也

〇祝詞考下

つた九

税といひ、毎年、不動ありて、貸する利を取、第、上、を  
租穀といふ、租、上、の、名、也、右、大、税、を、田、力、と、い、ふ、百、姓、の、か  
ら、思、耕、す、か、ら、す、た、り、也、此、も、神、田、の、給、を、貸、ら、る、ハ、其、の、給  
ど、う、す、と、云、田、れ、後、の、名、を、借、し、ま、し、の、ま、さ、く、既、了、前、條、大、神、宮  
式、を、引、が、め、し、五、十、鈴、の、宮、す、小、税、二、百、三、十、束、大、税、一、百、八、十、束、片、税  
一、千、二、百、二、十、二、束、と、あ、れ、を、如、横、山、積、置、べ、し、を、れ、を、懸、税、し、り、す、  
り、あ、り、く、も、伊、勢、人、の、向、ふ、所、を、新、橋、類、を、つ、く、竹、之、著  
て、新、進、す、と、い、は、し、り、を、その、意、を、大、前、に、さ、か、し、と、  
如、横、山、と、い、ふ、し、も、その、所、を、い、は、す、も、は、た、し、又、田、力、と、い、ふ、給、を、  
小、竹、の、あ、り、著、し、初、後、と、い、ふ、も、あ、り、し、り、の、似、し、り、  
ヨ、コ、ヤ、ン、ニ、ト、オ、キ、タ、ラ、ハ、シ、テ、オ、ホ、ナ、カ、ト、三、ノ、フ、ト、ダ、ニ、ク、シ

爾 隱侍 天 上 今年 九月 十七日 朝日  
爾 隱侍 天 上 今年 九月 十七日 朝日  
如 横 山 之 置 足 成 天 大 中 臣 大 玉 串  
爾 隱 侍 天 上 今 年 九 月 十 七 日 朝 日

豐 榮 登 爾 天津 祝 詞 乃 大

祝 詞 辭 乎 稱 申 事 乎 神 主 部 物 忌 等

諸 聞 食 止 宣 禰 宜 内 人 荒 祭 宮 月 讀

宮 母 爾 如 是 申 進 止 宣 神 主 部 共 稱 唯

○ 奉 入 齋 内 親 王 時 詞 進 神 嘗 幣 詞

今、おの、齋、内、親、王、奉、入、時、進、神、嘗、幣、詞、申、畢、次、即、申、云、辭、別、云、云、  
と、い、ふ、も、あ、り、し、り、の、似、し、り、





去るんがかり  
死生...  
いふ...  
の初也

祭於倭宮...  
御杖代  
止進給布御命  
大御臣  
茂祥中

取持  
氏  
取中事而奏請人等也  
能宜

恐美  
恐美  
申給  
止申

遷奉大神宮祝詞 豐受官

九大宮二十年一度造替正殿寶殿及外幣殿  
遷奉新殿云云九大神宮年辰滿應修造者遣使  
山口神祭採正殿心柱祭場社地鎮祭造船代祭  
東使

祝詞考下

○  
の  
一  
三  
且  
申

皇御孫能御命乎以氏皇大御神能

大前爾申久常乃例尔依氏廿年爾

一遍比大宮新仕奉氏雜御裝束物

五十四種神寶廿一種乎以

備氏波清賣室材と山は家の時を始

某姓名乎差使氏色ハ送官使の外

一人史生一人宮掌一人使部二人

史史生神部十部等として部領

饗會宮十五日奉徒御像御加代

同日難饗大神宮十六日奉徒御像

申

右は伊勢の傳々々々朝々々々

○遷却崇神祭詞

高天原爾神留坐氏事始給

○祝詞考下

○三

大和國高市縣

神留をかくし万々云々と訓くは

本云くても、此の  
司して司する  
まゝとし、おのり  
宮より生る。其  
百津真播。一也  
のひきや、用と  
一也、ひき、新  
といふ也、た  
ひき、新

神留をかくし万々云々と訓くは、  
この種は、借はるる。ほつるを、  
此神を常祀す。天照大神より、  
神留坐す。神留坐す。神留坐す。

神漏岐神漏美命以感天之高市

爾は、大和國高市縣の

聖能許能多氣新爾古陀加流伊能都加佐爾比那用夜爾斐陀成

流波毗呂由都麻都婆岐を、  
神集集給

百津真播。一也

比神議々給我皇御孫之尊

水穗之國乎安國止乎氣所知食止

天之磐座放天之八重雲乎伊頭

之千別爾千別氏

寄奉志時爾誰神乎先遣志水穗國

能荒振神等乎神攘々乎氣年神議

○中教よはるるら  
るハ、まゝに也を  
ハ、まゝに也を  
ハ、まゝに也を  
ハ、まゝに也を  
ハ、まゝに也を  
ハ、まゝに也を  
ハ、まゝに也を  
ハ、まゝに也を  
ハ、まゝに也を  
ハ、まゝに也を

議給時爾諸神等皆量申久ハカリタマフニモロカムガチニチカクニラナク久  
議給時爾諸神等皆量申久ハカリタマフニモロカムガチニチカクニラナク久  
天穗日之命乎遣而平アマノホヒノミコヲツカハシテ  
止申支トマシキ是以天降遣時爾コレヲモテオアノクダシキニ  
此神波返言不申氏次遣志健三熊コノカミハカリコトニラカス  
之命毛隨父事氏ミミトモノチノコトニミタカヒラ返言不申カレコトニラカス  
神代紀云以天穗日命往乎之然此神倭婿於大己貴神比及三年尚不カミヤマトリノミコトニテ天穂日命往乎之然此神倭婿於大己貴神比及三年尚不  
報同故仍遣其子大背飯三熊大人此亦還順其家不報同云云カミヤマトリノミコトニテ天穂日命往乎之然此神倭婿於大己貴神比及三年尚不  
又遣天若彦カミヤマトリノミコトニテ天穂日命往乎之然此神倭婿於大己貴神比及三年尚不

毛反言不申モカヒコトニラカス高鳥歟爾依タカトリノミコトニテ立處タチトコロニ  
身亡支ミコトニテ是コレ以天津コレヲモテ天津  
神能御言以カミノミコトニテ更量給オホシクタマフ經津主命フツヌシノミコトニテ  
健雷命二柱神等タケイカサノミコトニテ天降給アマノクダシ荒振アラハレ  
神等乎神壤々給カミノミコトニテ語問志磐根樹コトヲトモシテ  
立艸之片葉毛語止タチノカサノカタハハモトヤメ皇御孫之尊スメミコトニテ  
天降所寄奉支アマノクダシコトニテ神代傳信とカミヤマトリノミコトニテ  
○神代考下カミヤマトリノミコトニテ

○神代考下

○世五



多知... 神子... 此波四方... 見露山川  
 此相... 見行弄... 賜年山川能澤所者...

能清地爾遷出坐... 光仁天皇紀の記... 見行弄...

宇須波伎坐... 世... 宇志波部... 同大國主神云云...

志播言伊麻須諸能... 牛掃神... 丹波...

美和宇新王... 進幣帛者明妙照妙...

和妙荒妙爾備奉... 見明物... 鏡...

物止玉射放物止... 弓矢打新物止... 太...

刀馳出物止御馬... 上御鏡...

御酒者... 高知...

魁腹滿雙... 米爾... 穎爾... 山爾... 住物者...

毛乃和物毛能荒物大野原爾... 生物...

者甘菜辛菜青海原爾... 住物者... 齋...

○祝詞考下

つれ七

物<sup>モノ</sup> 鱒<sup>ハタ</sup> 狹<sup>サ</sup> 物<sup>モノ</sup> 奥<sup>オキ</sup> 津<sup>ツ</sup> 海<sup>ウミ</sup> 菜<sup>ナ</sup> 邊<sup>ヘ</sup> 津<sup>ツ</sup> 海<sup>ウミ</sup> 菜<sup>ナ</sup> 爾<sup>ニ</sup>  
 爾<sup>ニ</sup> 氏<sup>シ</sup> 横<sup>ヨコ</sup> 山<sup>ヤマ</sup> 之<sup>ノ</sup> 如<sup>コト</sup> 久<sup>ク</sup> 八<sup>ヤト</sup> 物<sup>モノ</sup> 尔<sup>ニ</sup> 置<sup>オキ</sup> 足<sup>タラシ</sup> 式<sup>シキ</sup> 奉<sup>タテマツル</sup>  
 留<sup>ル</sup> 宇<sup>ウ</sup> 豆<sup>ツ</sup> 之<sup>ノ</sup> 幣<sup>ヒ</sup> 帛<sup>ヒラ</sup> 手<sup>テ</sup> 八<sup>ハ</sup> 取<sup>トル</sup> 机<sup>キ</sup> 物<sup>モノ</sup> を 予<sup>ヨ</sup> 以<sup>ヨリ</sup> 奉<sup>タテマツル</sup>  
且<sup>且</sup> 爾<sup>爾</sup> 之<sup>之</sup> 幣<sup>幣</sup> 帛<sup>帛</sup> 手<sup>手</sup> 八<sup>八</sup> 取<sup>取</sup> 机<sup>机</sup> 物<sup>物</sup> を 予<sup>予</sup> 以<sup>以</sup> 奉<sup>奉</sup> 且<sup>且</sup> 爾<sup>爾</sup> 之<sup>之</sup> 幣<sup>幣</sup> 帛<sup>帛</sup> 手<sup>手</sup> 八<sup>八</sup> 取<sup>取</sup> 机<sup>机</sup> 物<sup>物</sup> を 予<sup>予</sup> 以<sup>以</sup> 奉<sup>奉</sup>  
 皇<sup>スミ</sup> 神<sup>カミ</sup> 等<sup>ナド</sup> 乃<sup>ナラバ</sup> 荒<sup>アラハ</sup> 乃<sup>ナラバ</sup> 神<sup>カミ</sup>  
 御<sup>ミ</sup> 心<sup>ココロ</sup> 毛<sup>モ</sup> 明<sup>アカシ</sup> 爾<sup>ニ</sup> 荒<sup>アラハ</sup>  
 安<sup>ヤス</sup> 幣<sup>ヒ</sup> 帛<sup>ヒラ</sup> 乃<sup>ナラバ</sup> 足<sup>タラシ</sup> 幣<sup>ヒ</sup> 帛<sup>ヒラ</sup> 止<sup>トドメ</sup> 平<sup>ヒラ</sup> 久<sup>ク</sup> 聞<sup>ク</sup>  
安<sup>安</sup> 幣<sup>幣</sup> 帛<sup>帛</sup> 乃<sup>乃</sup> 足<sup>足</sup> 幣<sup>幣</sup> 帛<sup>帛</sup> 止<sup>止</sup> 平<sup>平</sup> 久<sup>久</sup> 聞<sup>聞</sup>

食<sup>シ</sup> 氏<sup>シ</sup> 崇<sup>タカ</sup> 給<sup>タマフ</sup> 比<sup>ヒ</sup> 健<sup>タカシ</sup> 給<sup>タマフ</sup> 事<sup>コト</sup> 無<sup>ナシ</sup> 久<sup>ク</sup> 山<sup>ヤマ</sup> 川<sup>カハ</sup> 乃<sup>ナラバ</sup> 廣<sup>ヒロシ</sup>  
 久<sup>ク</sup> 清<sup>スガ</sup> 地<sup>チ</sup> 爾<sup>ニ</sup> 遷<sup>ウツリ</sup> 出<sup>イデ</sup> 吐<sup>ヒ</sup> 氏<sup>シ</sup> 神<sup>カミ</sup> 奈<sup>ナ</sup> 我<sup>ガ</sup> 良<sup>ヨシ</sup> 毛<sup>モ</sup> 鎮<sup>ツケ</sup>  
 吐<sup>ヒ</sup> 世<sup>セ</sup> 稱<sup>ナヅケ</sup> 辭<sup>コト</sup> 竟<sup>ハハ</sup> 奉<sup>タテマツル</sup> 止<sup>トドメ</sup> 申<sup>マツル</sup>  
吐<sup>吐</sup> 世<sup>世</sup> 稱<sup>稱</sup> 辭<sup>辭</sup> 竟<sup>竟</sup> 奉<sup>奉</sup> 止<sup>止</sup> 申<sup>申</sup>  
 八十<sup>ハチ</sup> 二<sup>ニ</sup> 日<sup>ニ</sup> 神<sup>カミ</sup> の 申<sup>マツル</sup>

○ 遣<sup>ツク</sup> 唐<sup>タウ</sup> 使<sup>シ</sup> 時<sup>トキ</sup> 奉<sup>タテマツル</sup> 幣<sup>ヒ</sup>  
式<sup>式</sup> 二<sup>二</sup> 同<sup>トウ</sup> 遣<sup>ツク</sup> 唐<sup>タウ</sup> 船<sup>フネ</sup> 居<sup>イ</sup> 祭<sup>マツル</sup> 社<sup>シャ</sup> 住<sup>ヅク</sup> 告<sup>ツク</sup> 式<sup>式</sup> の 難<sup>ガタシ</sup> あり 且<sup>且</sup> 理<sup>リ</sup> も 明<sup>アカシ</sup> ぬ 也<sup>ヤ</sup> 既<sup>イデ</sup> 在<sup>イデ</sup> 於<sup>コト</sup> 神<sup>カミ</sup> 邊<sup>ヘ</sup>

○ 祝詞考下





貴ぶ。奈高人の御事也。或は疑ふ。我天候然。神子中  
 貴ぶ。上つゆり。奈高人の御事也。或は疑ふ。我天候然。神子中  
 貴ぶ。上つゆり。奈高人の御事也。或は疑ふ。我天候然。神子中

貴ぶ。上つゆり。奈高人の御事也。或は疑ふ。我天候然。神子中  
 貴ぶ。上つゆり。奈高人の御事也。或は疑ふ。我天候然。神子中  
 貴ぶ。上つゆり。奈高人の御事也。或は疑ふ。我天候然。神子中

貴ぶ。上つゆり。奈高人の御事也。或は疑ふ。我天候然。神子中  
 貴ぶ。上つゆり。奈高人の御事也。或は疑ふ。我天候然。神子中  
 貴ぶ。上つゆり。奈高人の御事也。或は疑ふ。我天候然。神子中

○祝詞考下





國造後五位下。出雲臣  
 藤人兼神賀辭。名  
 出云。國造自頃  
 一。二。三。天孫。下  
 八。あり。神祇大副  
 の奉。御。さ。し。

天長五年。月紀。の  
 神。寶。下。町。式。五。種。神  
 寶。兼。所。出。雜。物。者  
 五。種。右。の。鏡。持。刀。俵。文  
 玉。一。種。し。し。し。し。し。

甘露一可。言。の  
 玉等。鑲。石。玉。葉。文  
 冠。輝。川。上。の  
 の。の。の。の。の。の。

出雲國造外正七位上出雲臣果安齋竟奉神賀奉神祇大副中  
 臣朝臣人足以其詞奏聞是日百官齋焉自果安至祝部一百一  
 十餘人進位賜錄有差。出雲國造自頃。一。二。三。天孫。下  
 八。あり。神祇大副の奉。御。さ。し。し。し。し。

一。出雲國造を任する。階級。式。以下。神祇官  
 麩。御。出。雲。國。造。同。造。版。下。就。か。く。金。装。太。刀。絲。結。調。布。鐵。等  
 と。國。造。の。鏡。毛。玉。一。種。の。物。と。し。し。し。し。し。

〇獻物ハ玉六十枚。赤水精。八枚。白水精。十。金銀。裝。楨。刀。一。口。長  
 尺六寸。鏡。一。面。徑。七。寸。倭。文。二。端。長。各。一。丈。四。尺。並。置。案。白。眼。鵲。毛。馬  
 一。疋。白。鶴。一。翼。無。御。寶。五。十。拜。拜。別。盤。ち。け。り。の。寶。也。奉。

〇神賀奉。御。事。の。前。の。儀。同。國。造。所。の。儀。也。

〇甘露。一。可。言。の。玉。葉。文。冠。輝。川。上。の。の。の。の。の。の。

〇玉等鑲石玉葉文冠輝川上ののののののの

〇祝詞考下

〇甲三



○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

毛畏岐 言ふくしやも。明御神 登。百子の明神神。

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

明神御大八

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

天

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

皇命

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

大八島國所和食

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

乃。續日本紀の宣命も。天皇命も。仍てよとす。皇天

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

○大御世

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

手長能大御世登齋

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

爲 氏。後新らも。云々も長能大御世登齋後新らも。今也。と有べし。吃

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

出雲國 乃。青垣山内 爾。青垣山とも垣の如く。山

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

天原 爾。千木高知坐 須。熊野に大神し。大名持命。

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

紀。景行。多々那豆久阿裏加伎夜麻基母礼苗夜麻登志宇流汲斯。

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

下津石根 爾。宮柱太敷立 高

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

三堂山 乃。いひ。る。喜望山ともいひ。いづれも。山

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

天原 爾。千木高知坐 須。熊野に大神し。大名持命。

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

理於高天原 蜚撮多迦斯理而居と有也。大名持命。

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

紀の大神 於宇迦能山之山本 於底津石根 宮柱布乃斯

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

理於高天原 蜚撮多迦斯理而居と有也。大名持命。

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

○祝詞考下

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

○祝詞考下

○神代記云頭露此云  
阿羅羅武と云也。

○祝詞考下







かまひせ...  
かまひせ...  
かまひせ...

も...  
も...  
も...

約... 且... 加... 次...

冠... 用... 冠... 加...

屋... 爾... 伊... 齋... 兼...

平... 伊... 能... 帝... 亦...

天... 伊... 豆... 閑... 黒... 益... 之...

金... 土... 器... 焼... 焼... 焼...

天... 能... 飛... 和...

雨... 齋... 許... 母... 利... 氏... 天... 借...

方... 齋... 手... 前... 坐... 置... 齋... 手... 忌... 穿... 履... 又... 志... 都... 宮... 爾...

忌... 靜... 米... 仕... 奉... 氏... 志... 都... 宮... 爾...

志... 志... 志... 志... 志...

朝... 日... 能... 豐... 榮... 登... 爾... 伊... 波... 比... 乃... 齋... 返... 事...

能... 神... 賀... 吉... 詞... 奏... 賜... 止... 波... 久... 奏... 此... 位... 上... 儀... 奉...

神... 賀... 吉... 詞... 奏... 賜... 止... 波... 久... 奏... 此... 位... 上... 儀... 奉...

加美の上世神も上  
加美の神祖懸登の  
大神も加美を伝へ  
人なり。加美の神  
仁の神祖懸登の  
大神も加美を伝へ  
人なり。加美の神

初て大神も加美の神祖懸登の大神も加美を伝へ人なり。加美の神

加美の神祖懸登の大神も加美を伝へ人なり。加美の神

加美の神祖懸登の大神も加美を伝へ人なり。加美の神

加美の神祖懸登の大神も加美を伝へ人なり。加美の神

加美の神祖懸登の大神も加美を伝へ人なり。加美の神

加美の神祖懸登の大神も加美を伝へ人なり。加美の神

加美の神祖懸登の大神も加美を伝へ人なり。加美の神

加美の神祖懸登の大神も加美を伝へ人なり。加美の神

加美の神祖懸登の大神も加美を伝へ人なり。加美の神

加美の神祖懸登の大神も加美を伝へ人なり。加美の神

加美の神祖懸登の大神も加美を伝へ人なり。加美の神

加美の神祖懸登の大神も加美を伝へ人なり。加美の神

加美の神祖懸登の大神も加美を伝へ人なり。加美の神

高天能神王

高天能神王の御孫命。高天能神王の御孫命。高天能神王の御孫命。

魂神魂能皇御孫命

魂神魂能皇御孫命の御孫命。魂神魂能皇御孫命の御孫命。

天下大八

島國車遊奉之時

島國車遊奉之時の御孫命。島國車遊奉之時の御孫命。

出雲臣等

出雲臣等の御孫命。出雲臣等の御孫命。

神祖

神祖の御孫命。神祖の御孫命。

日命乎國體見爾遣時

日命乎國體見爾遣時の御孫命。日命乎國體見爾遣時の御孫命。

果は皇紀の地形と  
加美の嶮易と見  
る也。加美の神  
祖懸登の大神も  
加美を伝へ人なり。



大天神... 水乃河和の...  
 小水...  
 若標火...  
 那那の...  
 ...

青水沫 毛 事問 天 荒 荒

國在 荒 荒 荒 荒 荒

孫命 尔 安國 登 平久 所知 坐

氏 三 三 三 三 三

天夷鳥命 爾 布都怒志命 乎 副 天

降遣 天 天 天 天 天

... 天 天 天 天 天

... 天 天 天 天 天

荒留神等 荒留神等

國作之 大神 乎 掃 掃

婿鎮 天 婿鎮 天

鳴國現事 顯事 令事 避 支

現 現 現 現 現

○大倭と申すは、  
今此の事、  
○大倭と申すは、  
今此の事、

乃大穴持命乃申給久皇御孫命乃  
静坐牟大倭國申天  
信州にてかくりとも、古の神を考へん、大穴持命、  
乃大穴持命乃申給久皇御孫命乃  
静坐牟大倭國申天  
○令と云、  
○令と云、

甚為嫉妬故其目子  
遲和備成自出倭國  
將上陸倭國而  
其  
○前、  
○前、

八咫鏡爾取託天  
玉命登名乎稱天  
大御和乃神奈備爾坐  
○前、  
○前、

○祝詞考下

おろしうらふしおろし  
しとておろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし

おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし

おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし

おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし

おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし

おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし

おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし

おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし

おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし

おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし

おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし  
おろしおろしおろし

○祝詞考下

魂 平。天親元山紀よ。比大神の授正四位下と見え。式よ高市郡よ。加夜奈留美命神社。いんえん。

賀夜奈流美命 御

飛鳥

○此の神社は、能登郡  
 比奈山に在り。其の靈  
 符、五つある。凡そ  
 此の神社は、能登郡  
 比奈山に在り。其の靈  
 符、五つある。凡そ

乃、神奈備爾坐天  
カミナノビニイサセテ  
 乃、神奈備爾坐天  
カミナノビニイサセテ

の刻、誤り也。○此神社を、古事記といひ、能登郡神奈備山に在り。其の靈符、五つある。凡そ此の神社は、能登郡比奈山に在り。其の靈符、五つある。凡そ

今、比奈山の御を奉る。今、神奈備。○比奈山に在り。其の靈符、五つある。凡そ此の神社は、能登郡比奈山に在り。其の靈符、五つある。凡そ

皇御孫命能近守神登貢置天  
スヘミミコトニミコトノチカキモリガミタテノリスキテ

八百丹杵築宮爾靜坐  
ヤホニコツキノミヤノビニシヅカセ  
 八百丹杵築宮爾靜坐  
ヤホニコツキノミヤノビニシヅカセ

是、皇親神魯伎神魯美命宣  
コノスヘミツカミカミロギカミロミミコトノノリシメ  
 是、皇親神魯伎神魯美命宣  
コノスヘミツカミカミロギカミロミミコトノノリシメ

能、手長大御世堅石爾常石爾伊波  
ノテオホミヨキカキハニトキハニイハ  
 能、手長大御世堅石爾常石爾伊波  
ノテオホミヨキカキハニトキハニイハ

比、奉伊賀志乃御世尔佐伎波閑奉  
ヒニツクリイガシニミヨキサキハニニシ  
 比、奉伊賀志乃御世尔佐伎波閑奉  
ヒニツクリイガシニミヨキサキハニニシ

登、仰賜志次乃隨爾  
ノオホセタヒシニツイテノニニニ  
 登、仰賜志次乃隨爾  
ノオホセタヒシニツイテノニニニ

○仰命  
ノオホセタヒシニツイテノニニニ

○祝詞考下  
 ○五十四

○イヤ自利ハ上ノ禮  
代ニ出スルモノ也  
利ハ自志ノ利  
○イヤ自利ハ上ノ禮  
代ニ出スルモノ也  
利ハ自志ノ利

の宮ひりハ大后持命也。祭祭して且孫命此時代とも遠く初らん  
為す。新らねて次々も徳有。能也。命も。遠く次つ

供齋 若後齋時 仕奉 氏朝日 乃豊榮  
者加後字 仕奉氏朝日乃豊榮

登 爾 神 乃 禮 自 利 臣 能  
登爾神乃禮自利臣能

禮 自 登 必 遠 乃 禮 自 利 臣 能  
禮自登必遠乃禮自利臣能

獻 良 久 矣 御 禱 乃 神 寶  
獻良久矣御禱乃神寶

丹波の鬼のりひりと。相おぼゆ。智さし。ありひ。仍て。その。も。  
上より 白玉 能 大御 白鬚 坐  
白玉能大御白鬚坐

赤玉 能 御阿加良毘 坐  
赤玉能御阿加良毘坐

青玉 能 水江  
青玉能水江

玉 乃 行 相 爾 水江を借字とす。稚枝とり。あ。お。三。今。十五  
玉乃行相爾水江を借字とす。稚枝とり。あ。お。三。今。十五

○八咫瓊とハ、弥十量の  
長さ法より、此玉と  
母として、神に奉る  
詞とを、命と志とを  
一玉に勾するを、いふ  
あつた。由。の。清。い。玉  
積む。か。つ。た。り。の  
形。い。ろ。う。勾。と。い。ふ  
あつた。由。の。清。い。玉  
積む。か。つ。た。り。の  
形。い。ろ。う。勾。と。い。ふ

如くは瓊之勾、右  
よ水江の玉の行相、  
天瓊之勾以曲妙御宇且如白銅鏡以分明看行山川海原乃提是八握  
天瓊之勾以曲妙御宇且如白銅鏡以分明看行山川海原乃提是八握



共に天下と地を治めり  
 一は凡そ治りて  
 ありん。右の如くは、天の  
 三才の如く、地を治りて  
 八景の如く、天を治りて  
 一は凡そ治りて、各白  
 赤青の如く、天を治り  
 る。一は凡そ治りて、各  
 の用を治りて、各白  
 又津氏、素戔嗚  
 毛命の如く、天を治り  
 て、各白赤青の如く、  
 天を治りて、各白赤青  
 の用を治りて、各白赤青

傳りぬれ、稱禱の如く、  
 大八島國所知

天皇命能手長大御世 御横

刀廣爾誅堅 米右提十握劍平天下

白御馬能前足爪後足

爪踏立事波大宮能内外御門柱

上津石根爾踏堅米下津石根爾踏

凝立振立流車波耳能彌高

爾天下乎所知食事志乃多米大鼓

一は凡そ治りて、各白赤青  
 の用を治りて、各白赤青  
 又津氏、素戔嗚  
 毛命の如く、天を治り  
 て、各白赤青の如く、  
 天を治りて、各白赤青  
 の用を治りて、各白赤青

調能玩物登是比と利べりれど、他の如く、

白鵲乃生

調能玩物登是比と利べりれど、他の如く、

白鵲乃生

調能玩物登是比と利べりれど、他の如く、

白鵲乃生

調能玩物登是比と利べりれど、他の如く、

白鵲乃生

まらめしや依て古  
布と云い...  
久と比...  
一もよの夜  
とひと...  
...

まらめしや依て古布と云い...  
久と比...  
一もよの夜とひと...  
世の...  
鶴もかまへる也...  
思ふ人...  
門利止る...  
雌雄...  
古布ハ...  
白も...  
白鶴鴻...  
無軒...  
...

今やこの生も...  
...

何の...  
...

...

倭文能大御心も多親爾...  
...

...

古川原此方能古川原爾...  
...

○新詞考下

〇五十七



後カミ之コト也ナリ。中ナカにナ多タ数ス也ナリ。後カミ之コト也ナリ。是コトにシテ見ミ此コト也ナリ。後カミ之コト也ナリ。是コトにシテ見ミ此コト也ナリ。

意志イシ波ハ留ル志シ 天ツカ押オシ暗カクレ也ナリ。見ミ行ユク事コト能ス已マ登ト

之コト明アカ御ミ神カミ能ス今イマ之コト也ナリ。大オホ八ヤチ島シマ國クニ乎コト元ゲン

地ツチ日ツキ月ヒ等ト共トモ爾ニ安ヤス久キウ平ヘイ久キウ知チ行ユク事コト

能ス志シ太タ米メ登ト既スナハ之コト御ミ禱イタダ乃ナリ神カミ寶ホウ乎コト擊キ持ヂ

氏ウヂ神カミ禮レイ自ジ利リ臣シ禮レイ自ジ登ト恐オソ彌ミ恐オソ彌ミ天アメ

津ツ次ジ能ス神カミ賀カ吉キチ詞シ白ハク賜カ登ト矣ナリ。總スベテ日ヒト命メノ乎コト始ハジ

後カミ之コト也ナリ。中ナカにナ多タ数ス也ナリ。後カミ之コト也ナリ。是コトにシテ見ミ此コト也ナリ。後カミ之コト也ナリ。是コトにシテ見ミ此コト也ナリ。

意志イシ波ハ留ル志シ 天ツカ押オシ暗カクレ也ナリ。見ミ行ユク事コト能ス已マ登ト

之コト明アカ御ミ神カミ能ス今イマ之コト也ナリ。大オホ八ヤチ島シマ國クニ乎コト元ゲン

地ツチ日ツキ月ヒ等ト共トモ爾ニ安ヤス久キウ平ヘイ久キウ知チ行ユク事コト

能ス志シ太タ米メ登ト既スナハ之コト御ミ禱イタダ乃ナリ神カミ寶ホウ乎コト擊キ持ヂ

氏ウヂ神カミ禮レイ自ジ利リ臣シ禮レイ自ジ登ト恐オソ彌ミ恐オソ彌ミ天アメ

津ツ次ジ能ス神カミ賀カ吉キチ詞シ白ハク賜カ登ト矣ナリ。總スベテ日ヒト命メノ乎コト始ハジ

門人 從四位下 荒木田神主 久光 手自書 寫畢

○祝詞考下

○五十九

五十槻園藏版

古俗記祝詞考の三卷を吾師縣在大人の  
の。漸の末ととまへ新也なり。まゝいゝや  
師の云ひ。しのまゝに承はるゝ。あ  
れ。いゝまゝに承はるゝ。まゝいゝや  
る。まゝいゝや。まゝいゝや。まゝいゝや。  
ふ。まゝいゝや。まゝいゝや。まゝいゝや。  
神皇親と云ふ。後款と云を作。行  
云。まゝいゝや。まゝいゝや。まゝいゝや。

新のこころを思ふ。其の考のよ。や  
あらば、紙のこころを思ふ。其の考のよ。や  
おぼろしき。おぼろしき。紙のこころを思ふ。其の考のよ。や  
いふ。いふ。おぼろしき。おぼろしき。紙のこころを思ふ。其の考のよ。や  
おぼろしき。おぼろしき。紙のこころを思ふ。其の考のよ。や  
漢のこころを思ふ。其の考のよ。や  
おぼろしき。おぼろしき。紙のこころを思ふ。其の考のよ。や

江に生れ。江に生れ。おぼろしき。おぼろしき。紙のこころを思ふ。其の考のよ。や  
紙のこころを思ふ。其の考のよ。や  
おぼろしき。おぼろしき。紙のこころを思ふ。其の考のよ。や  
いふ。いふ。おぼろしき。おぼろしき。紙のこころを思ふ。其の考のよ。や  
おぼろしき。おぼろしき。紙のこころを思ふ。其の考のよ。や  
漢のこころを思ふ。其の考のよ。や  
おぼろしき。おぼろしき。紙のこころを思ふ。其の考のよ。や

○麻調考下

わゝ祝詞追考と一巻とわゝ

わゝ

寛政十二子系久野波の孫宮と

去部

皇大神宮権孫宣彦四位下筑末回神之久老

祝詞考

全部三冊

同追考

全 壹冊嗣出

延喜式神名帳

全部五冊

中臣被瑞穂鈔

全部二冊

同追考

全部二冊

神代系圖傳

全部六冊

○祝詞考下

寬政十二年十一月刻成

浪華書林

河内屋 喜兵衛

河内屋 惣兵衛

河内屋 太助

河内屋 吉兵衛

今昔事考 卷之四 諸郡

八幡町 寺一 番

旅 舟 明 之



